

と き：平成16年2月23日(月) ところ：東京大学山上会館

第43回定時総会資料(1)

目	次
1. 平成15年度事業報告	1
2. 平成15年度収支計算書総括表	16
3. 平成15年度正味財産増減計算書総括表	17
4. 平成15年度貸借対照表総括表	18
5. 平成15年度財産目録総括表	19
6. 平成15年度収支差額一部処分(案)	22
7. 証 明 書	23
8. 平成15年度財務諸表 (一般会計)	25

SICE[®]

社団法人 計測自動制御学会

2003（平成 15）年度事業報告

I 概況

（一般事項）

2003（平成 15）年度は低迷する経済状態からの回復期において、SICE にとり国際化、IT 化、活動基盤の見直しなど将来の飛躍に向けた確実な布石を画った年であった。新型肺炎の流行により海外への渡航や海外からの参加者の来日が不可能になるなど不測の事態も起ったが、当初予定の計画をこなす事ができた。

1. 活動基盤の見直し

部門や支部活動が活発化している状況に鑑み理事構成を見直し部門担当理事および支部担当理事を設け、同時にタスクフォース担当理事を新設して機動的な活動を促す案を検討した。会長候補の選出規定に関しては透明性を高めるため部門長、支部長も参加するなどの改革案を検討した。以上の見直しは平成 17 年度組織から採用される運びとなった。

2. 国際化対応

8 月に福井大学で行われた Annual Conference は英語論文を推奨という制約をつけたにも関わらず、登録発表論文の過半数が英語となり応募が減少することも無く盛会で、オーガナイズド・セッションでは海外著名研究者の招聘も行った。北海道工業大学で開催される Annual Conference 2004 では 100%英語論文を計画している。また韓国 ICASE との連携により Annual Conference 2006 を韓国で共同開催することが正式に決定し細部検討の段階に入るなど、国際化の順調な進展が図られた。

3. 横幹連合活動支援

横断型基幹科学技術研究団体連合（略称横幹連合）の活動が始まり、SICE はどの学会とも関心を共有できる立場にあり主要支援学会の一つとして共同プロジェクトに参加している。事務局を SICE に設置し横幹連合の講演会講師派遣や共通論文誌の発行支援なども実施した。

4. IT 化進展

各種委員会や論文集査読打ち合わせなどにおける電子メール会議が日常的に行われ、移動時間が拘束される対面式会議に比べ意見交換がタイムリーで効率的に行われるようになった。事務局の事務処理も会計処理などが専用ソフトの導入で迅速に行われるようになった。さらにより一層の効率化を目指して、新会員データベースの構築、SICE Annual Conference 受付管理ソフトの作成に着手した。

5. 教育認定制度の改善

SICE における講習会や論文発表などにポイントを付与し継続教育（CPD）の客観的指標とする仕組みを構築し、計測制御エンジニア講習会にて試行した。

6. 公益法人の新制度移行準備

監督官庁による公益法人実地検査が行われ、事業規模と総支出額および内部留保水準の適正化と事務処理に関する規則の不備に対する改善指導を受けた。2004 年度末までに具体化される公益法人の新制度移行時に適合率が判断基準となるので、確実なフォローをしてゆく。

7. 会員数の推移

昨年末の会員数を一昨年と比較すると表のようになり、相変わらず賛助会員の減少が続いている。この主な要因は低迷する経済を反映した経費見直しにより、賛助会員各社において学会活動費の削減が行われているものと推定される。これに対しては SICE の活動そのものをより魅力的にすることが必要である。各支部で行われている企業と大学の情報交換、オープンラボ、地元企業に対する技術講習会、SI 部門が実施しているロボカップコンテストへの SICE 杯提供などは SICE の魅力を増す活動の一例である。正会員の減少傾向も続いているが、減少対策として学生会員の退会に歯止めを掛ける工夫をしてゆく。

	平成 15 年末現在	平成 14 年末現在	増 減
名誉会員	21 名	21 名	0 名
正会員	6,942 名	7,216 名	△274 名
学生会員	771 名	756 名	15 名
賛助会員	237 社 290 口	252 社 308 口	△15 社 △18 口

（1）企画委員会

平成 14 年度における検討結果にもとづいて、理事会構成および役員選出方法について検討し、改革

案を作成した。

今回の検討は、SICE の活動が部門や支部活動の活性化を通してより多様な分野に拡大しつつある現状を踏まえ、SICE に求められる社会的な期待に応えるため、魅力的で透明性の高い学会活動を推進する必要があるとの認識にもとづいている。

企画委員会での議論は、拡大企画委員会や支部懇談会、拡大理事会などの機会に説明し、それに対して出された多くの貴重な意見を、その後の検討に反映させた。その結果、部門担当および支部担当理事を配置すると共に、学会の課題に即応するためにタスクフォース担当理事を新設した。さらに、学会の活動方針に基づいて会長候補の選出を行い、理事候補推薦委員会に部門長と支部長が参加するようにするなど、より透明性が高く、幅広い意見が取り込める形態の選出規定を策定した。最終的に承認された新しい役員選出方法と理事会構成は、平成 17 年度の役員選出時から適用される。

また、英文論文誌の発刊、IT 時代において更なる発展をとげるためのビジネスモデルや SICE の将来ビジョンの構築など、中長期的な本学会の方向性の策定のためのワーキンググループを立ち上げ、検討を進めた。これらの WG は次年度にも引き継がれ、具体案を得たところで会員各位へ開示し、広く意見を聴取した上で成案を得る予定である。

(2) 会員・広報委員会

1. 会員制度・広報活動に関する基本的検討

本年度から、会員委員会と広報委員会を統合した新たな組織体制となった。会員ニーズの掌握方法、学会広報のあり方に関する基本的な検討を行い、SICE の会員制度のあり方、ブランド力の向上施策などを含む SICE ビジョンにかかわる課題を拡大理事会に提起し、この結果は平成 16 年度の事業施策として展開されることとなった。

2. 学生会員懇談会

SICE Annual Conference 2003 において 8 月 4 日に学生会員懇談会を開催した。20 名以上の学生会員が参加し、会長ほか理事会メンバーとの懇親を深めた。

3. SICE 会員・広報委員会主催チュートリアル

学生および若手社会人向けの SICE 分野に関するチュートリアルを以下のように開催した。(1) 計測分野の話題を中心に 5 月 12 日に慶応大学で開催し 22 名の参加があった。

(2) システム・制御分野の話題を中心に 12 月 15 日に東工大で開催し 40 名の参加があった。

4. ホームページ

ホームページの拡充・維持・更新体制について検討し、レビューと企画を行う専門 WG の設置を構想した。

(3) 学会賞委員会

1. 論文賞等の選考

論文賞、技術賞、新製品開発賞、それぞれの候補を選考し、理事会に報告した。著述賞、教育貢献賞は該当なしであった。

2. SICE Annual Conference Award の受賞者決定と表彰

本年度から新たに SICE Annual Conference Award を学会賞として運営した。Annual Conference Award 運用規則に基づき、選考委員会を組織し(委員長 東大・原 辰次)、International 部門、および、Young Author's 部門の受賞者を決定、8 月 6 日の Closing Session で表彰し理事会に報告した。

3. 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い 1 月理事会に報告した。学術奨励賞の運用に関して、次の判断、改定を行った。(1) 規定では、ポスターセッションでの発表論文を表彰の対象にするかどうかは明確ではないため、あらためてこれを審議し、対象に含めることとした。(2) 学術奨励賞の応募用紙記載項目に関し、候補者の指導教官、上長等の承認を不要とした。

4. 論文審査カテゴリーに関する検討

部門との対応の明確化、応用分野の奨励などを勘案し、「システム情報」カテゴリーを基礎/応用に 2 分する審査を初めて実施した。このカテゴリー分けについては引き続き検討した。

(4) 部門協議会

部門制に移行して 4 年目を迎え、部門活動が学会の中心となりつつあり、更なる飛躍のため各部門の自由闊達な活動と独立性を重視しながら、部門協議会を運営した。部門基金化の推進、部門活動における各賞の制定、論文誌委員会への委員派遣などの制度改革を推進した。各部門の活動として、ホー

ホームページをはじめとする広報活動の充実、部門大会の拡大化と会計の部門への委譲、新規分野の調査研究会の発足、部会・調査研究会の活動活性化を図って、大きな成果が得られた。また、理事を含め、今後の部門のあり方も協議した。以下、項目ごとに報告する。

1. 部門基金化の推進

部門の活性度は著しく向上し、事業収支が黒字基調となっているが、昨年度よりの学会本体と部門協議会との会計上の連結に従って30%を超えて繰越金を設定できないこととなり、各部門での努力の成果を制度的に保全する手立てが必要となった。そこで昨年度より計測部門、制御部門、システム・情報部門、システムインテグレーション部門等収益性の高い部門においては、繰越金の一部を部門で設定した基金に繰入れたが、今年度は更に部門のミッションの将来展開、開拓に関する調査および活動に資するために、基金の増額及び新規基金の設定を行った。

2. 社会貢献の拡充

部門活動において他学会等との協調事業や国際的な交流が活発になりつつあるが、昨年度よりSICEの冠を付けた賞をシステムインテグレーション部門からレスキュー工学部会が共催したロボカップ、レスキューロボットコンテスト部門賞の位置付けで設置した。本年度も表彰制度は学会活動の社会貢献やPRにも資するところが大きであると評価し、継続した。更に各部門大会での表彰も行っている。

3. 他委員会との協調

論文集委員会、産業論文委員会等委員会への委員派遣、ファンク論文賞の推薦論文決定、科研費審査委員候補選出等他委員会への委員派遣や学会本部への依頼事項に対する実務作業を行った。更に福井で開催されたSICE2003のオーガナイズドセッションにも積極的に企画し、成功させた。

4. 広報活動の充実

先端融合部門のホームページが開設され、全部門のホームページが立上った。それぞれの部門が部門広報委員を中心に活動を充実させており、部門レベルでの会員増を目指した。

5. 部門大会の拡大化と会計の部門への委譲

各部門の部門大会が年々盛況となっている。特にSI部門大会では論文数が618件とAnnual Conference並みの論文数となり、部門の活性化が顕著となっている。他方、部門協議会担当の業務負担が増加したため、部門大会の会計を効率化及び現地での迅速な対応を目的に原則部門扱いとした。部門によっては、負荷をこなしきれない可能性があるため、有償での本部への委託等救済策を検討した。

6. 新規分野の調査研究会の発足

科学技術の進歩が急速かつ多岐にわたって拡大、融合する時代にあつて、新しい調査研究会をシステムインテグレーションと先端融合に設置・活動した。特に先端融合部門には今後の学会の横断連携を行う、3つの調査研究会を設置した。

7. 部門協議会活動

各部門独自の運営体制が設けられ、部会、調査研究会の他に部門ごとの運営戦略に応じた各種委員会が設置される体制がこの3年間で確立されてきている。また、部門基金、部門表彰など部門内の規程もほぼ整備され、部門としての形が完成しつつある。

年間8回の部門協議会を開催し、部門活動のあり方、事務局との業務の協調、会計制度の効率化、部門登録制などの審議と部門間の調整等について協議した。いずれの会議でも諸制度や活動方針をめぐって活発な議論が展開された。また、地方在住の部門長の便宜を図るためメール会議も開催し、実施における技術的な大きな課題は克服されつつあり、有効性が認識された。また、部門協議会は部門間の調整や他の部門からの手法のTTの場としても貢献した。

8. 今後の部門のあり方の検討

企画委員会の議題を受け、部門協議会と拡大理事会で「部門のあり方」と「部門協議会のあり方」を討議した。既に平成17年度からは部門3人理事制となるが、選出方法や役割について協議した。「部門のあり方」基本的には現状の拡大路線であるが、先端融合部門のような横断型も必要との認識となった。更に、会員の部門登録については、複数登録可能とした上で、部門登録を行うべきとの意見が大多数を占めた。「部門協議会のあり方」は必要を認めながら、平成17年度以降回数減少を含めて更に討議することとなった。この「あり方」の討議は来年度以降も継続して討議することとなった。

(5) 国際委員会

計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指すという中長期ビジョンのもとで、

国際委員会は以下の活動を行った。

1. SICE Annual Conference

- Annual Conference 支援費を活用して、オーガナイズド・セッション(OS : 55 sessions, 231 papers), 海外著名研究者の招聘等を実施した。
- 論文受理, 査読, 最終原稿受理, CD-ROM 作成のプロセスを見直し, 国際会議としてのフローチャートに則した手順を確立した。
- 海外開催を目指して, 海外関係諸団体と協議し, 2006 年に韓国の ICASE と共同開催する方向で交渉中である。

2. 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催, 共催, 技術主催/共催, 協賛事項に関して審議・承認し, 財政負担のある主催, 共催について, 計画案の審議を行った。また, そのプロセスを明確かつ迅速化するためデータベース化とマニュアル化を図った。

3. Web Journal

会誌および論文集委員会と協議して, Web Journal の発行に向けて検討を開始した。

4. 海外学術団体との連携

SICE Annual Conference に対して, IEEE/IES, IEEE/RAS, IEEE/CSS, IEEE/SMC, Instrumentation, Systems, and Automation Society (ISA)の協賛を得た。

5. 部門・部会との関係

部門協議会・部会との協議のもとで, SICE Annual Conference への積極的な参画を促し, 多数の OS を提案した。

(6) 事業委員会

1. 委員会の任務

事業委員会は会員以外に対して教育・啓蒙活動を行うことをミッションとし, 従来から引き続く活動を行うと同時に, 新しい活動を企画していくこととした。

2. 活動報告

2.1 SICE 標準・規格に関する委員会

SICE が事務局を担当している JIS 規格 3 件について, 引き続き事務局としての作業を継続した。

2.2 SICE Week 2003

SICE Week の 3 年目にあたり, より効果的に SICE の存在感をアピールするため, 3 部構成とし, 第 I 部講演, 第 II 部中高生のための体験学習, 第 III 部地元企業のための技術講習会・技術相談会を行った。講演の部ではプレナリチュートリアル講演として 8 月 3 日川崎和男君(名古屋市立大学)による「機械から機器へ, デザインがめざすこと」が行われ 105 名が参加した。特別講演は SICE2003 との合同開催で 8 月 5 日に行った。参加者は 320 名。第 II 部は 8 月 3 日に片山正純君(福井大学)による「レゴ・マインドストームを用いたロボット・コントロールの作成・実験」が行われ 11 名が参加した。第 III 部は技術講演会として秦清治君(香川大学)による「製造ラインでの外観欠陥検査技術」が行われ 16 名が参加した。また同君による技術相談会が引き続き行われ, (株)福井鋸螺から 4 名(株)ホリカワから 3 名が参加し好評であった。

2.3 第 46 回自動制御連合講演会

システム制御情報学会が幹事学会となり, 萩原朋道君(京都大学)を運営委員長として 11 月 27 日, 28 日岡山大学で開催された。39 のオーガナイズドセッション, 390 数件の論文発表があり, 参加者は約 500 名であった。

2.4 公募型時限調査研究会の推進

実質的な活動は部門協議会で行われ, 今後も最先端分野の活動の場を会員に提供する目的で継続する。

(7) 教育グループ

1. 委員会構成および任務

教育グループでは従来の委員会構成を再編成し, 「教育・認定委員会」として運営することとした。任務は会員に対する教育・認定事業を幅広く行うこととし, 当面は次の 5 つのワーキンググループを立ち上げ活動することとした。

- 計測制御エンジニア WG 責任者:香川委員
- JABEE 対応 WG 責任者:本多委員
- CPD 制度 WG 責任者:岩岡委員

- ・ PDE 協議会対応 WG 責任者:佐藤委員
- ・ SICE 教育事業検討 WG 責任者:井上(雄)委員

2. 活動報告

2.1 計測制御エンジニア講習会/CPD パイロット事業

教育認定委員会 CPDWG で検討してきた SICE 講習会の CPD としての CD-ROM 化の対象として計測制御エンジニア講習会をパイロット事業とすることとなった。法政大学に所属の北森先生、森下先生に講師をお願いした講習会を 12 月 3 日に開催し、その講習内容を収録した CD を法政大学 IT 研究センターの協力のもと作成した。頒布は、印刷物とパッケージして頒布 CD-ROM 2 枚で先端学術シリーズと同じ扱いとする。

2.2 JABEE 関連

本委員会委員をはじめ多数の SICE 会員が機械分野、電気分野、工学(融合複合、新領域)分野において JABEE の活動に参加した。本委員会としては JABEE 審査員養成のための研修会に参加者を推薦した。JABEE に対し「横断的領域関連分野」を新たに設置するよう活動していくこととした。

2.3 PDE 協議会委託事業

経済産業省からの委託事業を SICE 教育認定委員会が日本機械学会経由で引き受け、教育マテリアルの作成を行った。この教材を講習会などで再利用することが SICE 側の権利として確保されること、この教材を用いて講習会を開催しその内容をもとに CD を作成し頒布する計画も検討する。

(8) 会誌編集委員会

SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流を目的とし、会誌「計測と制御」を年 12 回発行した。また、会員・非会員を問わず、SICE の活動について、広く情報発信するメディアとして活用される会誌をめざして、会誌内容、体裁の改善を図った。

具体的な実施項目を以下に挙げる。

1. 6 回の特集号と 4 回のミニ特集号を発行した。特集号のテーマは、毎号異なるターゲットを想定したものとし、会員の様々なニーズに応えることをめざした。
2. 様々な読者に毎号読みたい記事が 1 つはあることをめざし、リレー解説を 3 件開始した。
3. 編集委員会を年 6 回に減らしたが、電子メールの活用で滞りなく会誌編集を行えた。泊り込み企画会議は 6 月に開催し、特集号企画についての議論を行い、翌 1 年分のテーマ案を作成した。
4. 巻頭言の掲載を増やし、部門・支部との連携で部門日より、支部日よりを充実させた。また、計測エンジニア関連コーナーを設けて、部門活動を支援した。
5. Latex による入稿を推進し、印刷費、編集作業の削減を図った。
6. 平成 14 年度に実施したお知らせページのフォーマットを徹底し、わかりやすい、見やすい掲載形態への改善に努力した。お知らせページの規程を制定した。
7. 編集後記の位置付けや、次号目次の掲載場所を変更するなど、構成の改善を図った。
8. 応募のない表紙写真をとりやめ、新しいデザインを導入することに決めた(43 巻 1 号から採用)。

(9) 論文集委員会

論文集委員会は学術論文を定期的発行することが第 1 の使命である。これを達成するために、適切な査読者の選定、論文査読状況の管理などの定常的な業務を遂行し、当初計画どおり論文集を発行することができた。また、継続して論文特集号の企画・発行等、投稿論文を増やす努力を進めた。論文投稿数は低落傾向にあったのが下げ止まった状態になっているが、残念ながら上昇に転じるところまでは行っていないのが現状である。

論文集委員会の運営としては、本年度は、部門制に対応して論文集委員の数を増やした。一方、論文集委員会をほぼ隔月としてその回数を減らし、その代わりに分野別の小委員会毎の査読者決定のための打合せや採録・返却の確認等を e メールを利用して行うこととし、作業の効率化を図った。この結果、全体としては、投稿論文を受け付けた後の採否決定までにかかる期間が短縮されている。また、本年度は、査読および採否決定のプロセスの透明化と情報公開を図るため、手順と文書の整備を進めている。

(10) 産業論文委員会

発足 2 年目にあたり、産業論文集としての基盤を確立することを目標に活動し、委員会 2 回メール会議 3 回を開催した。主要な活動項目は下記の通りである。

1. 「有用性」「速報性」「利便性」を重視して「産業界からの積極的な投稿と産業界での活用が活発におこなわれる」こと、および「産業界の技術者にとって本論文集に採録されることが重要な業績を

として評価される」ことを目標とし、「各産業分野と各技術分野から選ばれた AE (Associated Editor) を中心とした査読体制」により「産業論文集として価値ある論文を採録する」ことを編集の基本方針とした。

2. 部門協議会を通じて計測、制御、システム・情報、SI の各部門に協力を依頼し、委員会体制を強化した。
3. カバーする産業分野の拡大と掲載論文数の増大をはかり、あわせて望ましい産業論文集を早期に実現するために、特集の企画を検討・推進した。
4. 「論文」「ショート・ペーパー」以外に「開発・技術ノート」を制度化し、読者の便と投稿者の増大をはかった。
5. 初年度の掲載論文数 2 件に比べ、本年度は投稿論文数 20 件、掲載論文数 13 件と大幅に増大した。

(1 1) 総務委員会

関連委員会、事務局などと連携して、主に下記業務をおこなった。

1. 事務局職員の採用を行った。
2. 10 月 15 日(水)、文部科学省より共管である経済産業省の担当者を伴って本会の業務および財産の状況に関する実地検査が実施され、対応した。

(1 2) 北海道支部

SICE Annual Conference 2004 の担当支部として実行委員会を発足、支部会員の協力を得て活動を開始した。平成 15 年度に行った事業は、ほぼ例年どおりで、成功裏に運営を終えた。以下に行った事業を列記する。

1. 講演会

第 1 回 主催 (03.3.7)	第 2 回 共催 (03.7.18)
第 3 回 共催 (03.10.31)	第 4 回 共催 (03.11.7)
第 5 回 共催 (03.11.7)	第 6 回 共催 (03.11.11)
第 7 回 共催 (03.11.19)	
2. 支部学術講演会 1 回 (03.1.23,24)
3. シンポジウム 1 回 (03.9.26)
4. 特別講演 2 回 (03.1.23, 9.26)
5. 懇親会 2 回 (03.1.23, 9.26)
6. システム科学研究会 1 回 (03.12.15)
7. その他の協賛事業 ロボットトライアスロン 2 回 (03.9.21, 10.19)
8. 第 40 回総会 (03.1.23)
9. 役員会

第 1 回(評議員会) (03.1.23)	第 2 回(幹事会) (03.4.22)
第 3 回(幹事会) (03.8.22)	第 4 回(評議員会) (03.8.22)
第 5 回(幹事会) (03.12.9)	第 6 回(評議員会) (03.12.9)

(1 3) 東北支部

1. 研究集会の開催

支部創設以来、脈々と続いている口頭発表形式の研究会であり、11 月末現在で 212 回を数えている。本研究会は、東北 6 県の各県内で 1 回ずつ（宮城県のみ 2 回）実施している。今年度は計 86 件の発表があり、地域内の研究交流、学会の広報、若手会員の勧誘などの役割を果たした。また、30 歳以下の発表者の中で特に優秀な発表を行った者に対して東北支部優秀発表奨励賞を授与しており、今年度は 4 名が受賞した。また支部内での研究交流を促進すべく、研究集会における他地区での発表の奨励を積極的に行うとともに、新たな開催地として秋田県立大学ではじめて実施した。

2. 講演会の開催

主催・共催などの講演会を積極的に開催し、本年度は 7 件を実施した。

3. 役員会の開催

支部運営の主体である運営専門委員会を 6 回、役員・評議員・運営専門委員合同委員会を 1 回開催した。本年は特に、地域内交流の促進、来年度に迎える東北支部創立 40 周年に関連する企画、学会改革に関連する支部運営の見直しなどについて検討を行った。

4. 会員勧誘の強化

機会ある毎に学会の広報活動を行い、会員勧誘を行ってきた。特に研究集会における優秀発表奨励賞受賞者を研究奨励賞に推薦するなどにより、入会活動を積極的に進めた。

5. 会議・講演会等の開催回数

講演会	7回
研究会	7回
見学会	0回
シンポジウム	0回
総会	1回
役員会	6回

(14) 中部支部

平成15年度における中部支部では、7つの研究員会と3つの地区研究委員会が研究会、セミナー、シンポジウム、講演会、ワーキング・セミナー、見学会などを企画し、今年度も活発な活動を行った。また、研究員会と支部事業委員会との共催行事によりいくつかの規模の大きい講演会、シンポジウムなども企画された。また、事業委員会は支部賛助会員還元事業として、企業と大学の情報交換・相互理解を促進することを目的とするオープンラボを実施し、盛況のうちに終えた。これら以外でも特別講演会、講習会などが企画され、支部全体としても活発な活動が行われた。また、支部賞の選考も行われ、研究賞2件、奨励賞1件の受賞が確定した。さらに、今年度は、企業・大学および、各研究員会の参加者のうちSICE非会員に積極的に入会をすすめるなどの会員増強キャンペーンを行い、ある程度の成果を得た。

実施した事業を以下に示す。

1. 特別講演会	4回(内、共催・協賛1回)
2. 見学会	8回(内、共催・協賛2回)
3. 講習会	2回(内、共催・協賛1回)
4. 研究会(含、講演会、シンポジウム、セミナー)	33回(内、共催・協賛5回)

(15) 北陸支部

平成15年度は、担当支部としてSICE Annual Conference 2003 in Fukuiの運営を成功裏に行った。支部主催・共催で実施した事業は以下の通りである。

1. 講演会	
第1回(03.1.9, 62名)	第2回(03.7.16, 80名)
第3回(03.7.31, 30名)	第4回(03.7.31, 70名)
第5回(03.10.22, 46名)	第6回(03.12.6, 50名)
2. 特別講演会	1回(03.1.27)
3. 共催講演会	1回(03.1.10, 38名)
4. 後援講演会	1回(03.11.14)
5. 平成15年度電気関係学会北陸支部連合大会(共催)	1回(03.9.21-22)
6. 講習会・セミナー	1回(03.11.7-8, 14-15)
7. 総会	1回(03.1.27)
8. 幹事会	5回(03.3.27...03.11.14)
9. 幹事・評議員合同会議	1回(03.1.27)

(16) 関西支部

平成15年度に行った事業は以下の通りである。

1. 特別講演会	1回(03.2.5)
2. 講習会	1回(03.6.6)
3. 見学会	2回(03.7.4, 03.11.14))
4. シンポジウム	1回(03.10.24)
5. 総会	1回(03.2.5)
6. 特別幹事会	1回(03.8.20)
7. 拡大幹事会	1回(03.12.22)

(17) 中国支部

1. 支部定時総会を1月に開催し、平成14年度事業報告、平成14年度決算報告、平成15年度役員、

平成 15 年度事業計画, 平成 15 年度予算案の承認を得た. また, 特別講演会(演題:「人に協調するロボットの制御技術と身体運動の支援」, 講師:名古屋大学 先端技術共同研究センター知能システム分野 教授 大日方 五郎 先生)を行った.

2. 役員会および拡大幹事会を 4 回開催し, 支部運営の協議を行った.
3. 第 12 回計測自動制御学会中国支部学術講演会を平成 15 年 11 月 29 日(土)に岡山大学津島キャンパスにて開催した. 講演件数は 112 件, 参加者は約 200 名であった. また, 特別講演(演題:「制御分野でこれまで開発してきたこと」, 講師:東芝 IT コントロール (株) チーフ・スペシャリスト 重政 隆 氏), チュートリアル講演(演題:「プリント回路基板の EMI 低減実装設計」講師:岡山大学工学部助教授 和田修己先生)を行った.
4. 会員への学術・技術情報の提供のために以下の事業を行った.

学術講演会	1 回 (03.11.29)
グループ研究会	14 件
講演会	15 回 (03.5.9・・・03.12.19)
講習会	1 回 (03.11.14)
見学会	2 回 (03.10.24, 03.11.28)
協賛行事	2 回 (03.10.24)
総会	1 回 (03.1.24)
役員会	3 回 (03.1.24・・・03.11.29)
拡大幹事会	1 回 (03.5.16)

(18) 四国支部

平成 15 年度に行った事業は以下の通りである.

1. 学術講演会

第 1 回 (03.1.24)	第 2 回 (03.6.23)
第 3 回 (03.7.3)	第 4 回 (03.7.15)
第 5 回 (03.11.7)	
2. 平成 15 年度電気関係学会四国支部連合大会 (共催) 1 回

(19) 九州支部

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者, 技術者, 学生を主な対象として, 地域の会員等にとって魅力ある活動を目指し, 以下の事業を展開した.

1. 研究活動の場と情報の提供
特別講演会, 研究会(SICE 九州フォーラム), 講義会, 学術講演会, 講演会などを実施した. また, 総会や Web を通して支部における活動の情報提供を行った.
2. 会員増加への取り組み
本年度より新たに学生発表交流会を企画し, 学術講演会と同時に実施した. 発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし, 学生に気軽に参加しもらうもことで, SICE の魅力を学生に伝える場を提供した.
3. 支部運営および事業企画・検討
総会, 評議会, 役員会, 委員会を開催し, 支部の諸活動の立案・実施にあたりとともに, これまでの活動内容の検討や改革, 新企画の発案などを行った.
4. 本支部において平成 15 年度 (第 33 期) に実施した事業を以下に示す.

学術講演会	1 回
講義会	1 回
特別講演会	1 回
研究会(SICE 九州フォーラム)	1 回
共催研究会	1 回
講演会	10 回
総会	1 回
役員会	5 回
評議会	3 回
委員会	3 回

II 事業

(1) 会誌「計測と制御」(Vol.42, No.1~No.12)を毎月発行

- 1月号 特集・マイクロマシン—実用化とナノ領域への展開—
 - 2月号 ミニ特集・制御理論における未解決問題
 - 3月号 特集・横断型基幹科学技術の役割とその推進
 - 4月号 特集・フレッシュマンのための制御講座
 - 5月号 特集・脳機能の非侵襲計測
 - 6月号 特集・人工知能の現在と将来
 - 7月号 特集・21世紀のリーディング生産技術
 - 8月号 ミニ特集・ベイズ統計・統計力学と情報処理
 - 9月号 ミニ特集・生物に学ぶ機械と制御
 - 10月号 特集・非線形性に挑む・・・システム制御理論の最前線
 - 11月号 特集・温度計測—この10年と未来—
 - 12月号 ミニ特集・流体計測制御技術の最前線
- 総頁数 1,058 頁

(2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.39, No.1~12)を毎月発行

総頁数 1,174 頁,
掲載論文 137 件, ショート・ペーパー19 件, 開発・技術ノート 0 件,
投稿論文数 202 件, ショート・ペーパー27 件, 開発・技術ノート 1 件, 討論 0 件, 購読数 2,084
部

(3) 産業論文

13 編を Web 上で公開

(4) 英語論文

第 2 巻を Web 上で公開

(5) 講演会

1. 主催

- (ア) SICE Annual Conference in Fukui (03.8.4-6・福井大学)
(一般セッション 95 件, オーガナイズドセッション 55 件, 参加者 972 名)
- (イ) 第 1 回チュートリアル講演会 (03.5.12・横浜・22 名)
- (ロ) 第 2 回チュートリアル講演会 (03.12.15・東京・36 名)

2. 共催

- (ア) 第 50 回応用物理学関係連合講演会 (03.3.27-30・横浜)
- (イ) ロボカップジャパンオープン 2003 新潟 (03.5.1-05・新潟)
- (ロ) 第 41 回原子力総合シンポジウム (03.5.20-21・奈良)
- (ハ) 平成 15 年度工学教育連合講演会 (03.6.14・名古屋)
- (ニ) 第 40 回理工学における同位元素・放射線研究発表会 (03.7.9-11・東京)
- (ホ) 第 33 回安全工学シンポジウム (03.7.10-11・東京)
- (ヘ) 第 22 回混相流シンポジウム (03.7.23-26・東京)
- (ロ) 第 46 回自動制御連合講演会 (03.11.27-28・岡山)

(6) 部門大会／部門学術講演会

- (1) 第 3 回制御部門大会 (03.5.28-30・神戸・285 名)
- (2) 第 20 回センシングフォーラム (03.9.16-17・東京・128 名)
- (3) 産業応用部門大会 (03.11.19・東京・114 名)
- (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2003) (03.11.11-13・仙台・103 名)
- (5) 第 4 回システムインテグレーション部門講演会(SI2003) (03.12.19-21・東京・850 名)

(7) 支部関係／支部学術講演会

- (1) 北海道支部
学術講演会 1 回, 講演会 7 回, 特別講演会 2 回, 研究会 1 回, シンポジウム 1 回, 協賛事

- 業 2 回
- (2) 東北支部
講演会 7 回, 研究会 7 回
 - (3) 中部支部
講習会 2 回, 特別講演会 4 回, 研究会 33 回, 見学会 8 回
 - (4) 北陸支部
講演会 6 回, 特別講演 1 回, セミナー 1 回, 共催・講演講演会 2 回, 電気関係連合大会 1 回
 - (5) 関西支部
特別講演会 1 回, 見学会 2 回, シンポジウム 1 回, 講習会 1 回
 - (6) 中国支部
学術講演会 1 回, 講演会 15 回, 研究会 14 回, 見学会 2 回, 講習会 1 回, 協賛行事 2 回
 - (7) 四国支部
講演会 5 回, 電気関係連合大会 1 回
 - (8) 九州支部
学術講演会 1 回, 講演会 10 回, 特別講演 1 回, 研究会 1 回, 共催研究会 1 回, 講議会 1 回

(8) 講習会

- (1) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (03.3.17-18・東京・23 名)
- (2) 第 3 回制御部門ワークショップ (03.5.27・兵庫・60 名)
- (3) SICE セミナー「ロバスト制御入門」 (03.7.2-3・横浜・57 名)
- (4) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (03.9.18-19・東京・31 名)
- (5) SICE セミナー「実践的な制御系設計-ゲインスケジューリング制御とむだ時間制御-」 (03.10.22・東京・39 名)
- (6) SICE セミナー「ロバスト制御入門」 in 北九州 (03.11.11-12・福岡・28 名)
- (7) 第 1 回計測制御エンジニア講習会 (03.12.3・東京・27 名)
- (8) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (03.12.4-5・東京・17 名)

(9) シンポジウム

- (1) 第 15 回自律分散システム・シンポジウム (03.1.27-28・仙台・87 名)
- (2) 第 3 回適応学習制御シンポジウム (03.3.13-14・東京・57 名)
- (3) 第 30 回知能システムシンポジウム (03.3.19-20・東京・78 名)
- (4) 第 9 回創発システムシンポジウム (03.8.22-24・富山・102 名)
- (5) 第 18 回生体・生理工学シンポジウム (03.10.6-8・新潟・262 名)
- (6) 第 20 回誘導制御シンポジウム (03.10.23-24・長野・54 名)
- (7) 第 32 回制御理論シンポジウム (03.11.5-7・浜松・126 名)
- (8) 第 29 回リモートセンシングシンポジウム (03.11.10-11・筑波・37 名)
- (9) 第 8 回パターン計測シンポジウム (03.11.14-15・京都・17 名)
- (10) 第 4 回流体計測制御シンポジウム(産業応用部門大会と併設) (03.11.19・東京)
- (11) 計装技術交流部会・産業システム部会合同シンポジウム(産業応用部門大会と併設) (03.11.21・東京)

(10) 部門活動

- 1. 計測部門 運営委 3 回
 - (ア) センシングフォーラム委員会 委 3 回, 部門大会 1 回
 - (イ) 温度計測部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 2 回
 - (ウ) 流体計測部会 共催行事 3 回
 - (エ) 力学量計測部会 部会企画行事 1 回, 共催行事 5 回
 - (オ) リモートセンシング部会 委 1 回, 部会企画行事 3 回
 - (カ) パターン計測部会 委 3 回, 部会企画行事 3 回, 協賛行事 1 回
 - (キ) センシングフォトニクス部会 協賛行事 1 回
 - (ク) 先端電子計測部会 委 4 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 1 回
 - (ケ) ネットワークセンシングシステム調査研究会(公募) 委 4 回, 部会企画行事 2 回, 共催行

- 事 1 回, 協賛行事 1 回
2. 制御部門 運営委 4 回 部門大会 1 回 セミナー 7 回
 - (㉑) 制御技術部会 委 5 回, 部会企画行事 3 回
 - (㉒) 制御理論部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (㉓) 力学系・生物系の本質から制御を考える調査研究会 研究会企画行事 1 回
 - (㉔) 新しい制御と数学の接点を探る調査研究会 研究会企画行事 3 回
 - (㉕) ユーザのための適応学習制御調査研究会 研究会企画行事 6 回
 - (㉖) 移動体のアドバンスト誘導制御調査研究会 研究会企画行事 2 回
 - (㉗) 制御と情報通信ネットワークに関する調査研究会 研究会企画行事 2 回
 - (㉘) 計測制御技術を応用したリスク工学調査研究会 (公募) 研究会企画行事 4 回
 3. システム・情報部門 運営委 3 回 部門大会 1 回
 - (㉙) システム工学部会 委 1 回 部会企画行事 4 回
 - (㉚) マンマシンシステム部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
 - (㉛) 知能工学部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
 - (㉜) 生体・生理工学部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回
 - (㉝) 自律分散システム部会 委 3 回, 部会企画行事 4 回
 - (㉞) ニューラルネットワーク部会 委 1 回, 共催行事 2 回
 - (㉟) 離散事象システム部会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
 - (㊱) SFC 調査研究会 委 1 回, 部会企画行事 3 回
 - (㊲) SMC 国内委員会 共催行事 1 回
 - (㊳) 移動知実現のシステム原理とその工学的実現に関する調査研究会 (公募) 研究会企画行事 2 回
 4. システムインテグレーション部門 運営委 12 回, 部門大会 1 回, 共催行事 5 回, 協賛行事 2 回
 - (㊴) メカトロニクスシステム部会 部会企画行事 2 回
 - (㊵) 自動化システム部会 委 1 回
 - (㊶) ロボティクス部会 部会企画行事 2 回
 - (㊷) 福祉工学部会 部会企画行事 1 回
 - (㊸) VR 工学部会
 - (㊹) レスキュー工学部会 委 3 回, 部会企画行事 2 回, 共催行事 3 回
 - (㊺) ユニバーサルデザイン部会 部会企画行事 1 回
 - (㊻) 相互作用と賢さ部会 部会企画行事 4 回
 - (㊼) 共創システム部会 委 2, 部会企画行事 5 回
 - (㊽) RAT/AAT 調査研究会 委 6 回, 研究会企画行事 2 回, 共催行事 14 回
 - (㊾) 安全回復システム部会 委 3 回, 部会企画行事 2 回
 - (㊿) バイオシステム部会 委 1 回, 共催行事 1 回
 - (㊱) RT システムインテグレーション部会 部会企画行事 2 回
 - (㊲) ソフトマテリアル機能応用調査研究会 部会企画行事 3 回
 - (㊳) 社会計測制御システム調査研究会 (時限)
 5. 産業応用部門 運営委 6 回, 部門大会 1 回
 - (㊴) 産業システム部会 委 2 回, 部会企画行事 1 回
 - (㊵) 計装技術交流部会 委 2 回, 部会企画行事 6 回
 - (㊶) 流体計測制御部会 部会企画行事 1 回
 - (㊷) 計測・制御ネットワーク部会
 6. 先端融合部門 運営委 2 回
 - (㊸) 産業に役立つ技術の評価のための調査研究会
 - (㊹) SICE 領域技術教育における企画・設計能力開発と評価に関する調査研究会 運営委 4 回, 調査研究会 3 回, OS 企画 1 回
 - (㊺) 人工生命システム調査研究会
 - (㊻) 次世代医療福祉システム調査研究会, 調査研究会 1 回
 - (㊼) バイオミメティックマシン調査研究会
 - (㊽) ライフサポート計測制御システム調査研究会 (公募), 調査研究会 3 回

(11) 国際会議 (共催)

- (1) 第 8 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム

(03.1.24-26・別府)

- (2) 2003 IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE 2003)
(03.6.9-12・Rio de Janeiro)
- (3) 2003 IEEE International Conference on Control Applications (CCA)
(03.6.23-25・Istanbul)
- (4) International Conference on Composites/Nano Engineering (ICCE-10)
(03.7.20-26・Louisiana)
- (5) International Conference on Multisensor Fusion and Integration for Intelligent Systems (MFI)
(03.7.29-8.1・豊中)
- (6) 第16回光ファイバーセンサ国際会議
(03.10.13-17・東京)
- (7) 2003 International Symposium on Micromechatronics and Human Science (MHS 2003)
(03.10.19-22・東京)
- (8) 2003 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2003)
(03.10.27-11.1・Las Vegas)
- (9) IECON 2003- 29th Annual Conference of IEEE Industrial Electronics
(03.11.2-6・Roanoke)
- (10) EcoDesign 2003
(03.12.8-11・東京)
- (11) 2003 42nd IEEE Conference on Decision and Control
(03.12.8-12・Maui)

(12) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズ，第11巻「プロセス制御」，第5巻「産業応用計測技術」，第13巻「ビークル」を発刊。

(13) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売)
- (2) " (機器・応用編)(オーム社より販売)
- (3) 教育用ビデオ教材 初心者のための現代制御理論ビデオ講座 累計 664 セット
- (4) SICE-BASE 30 累計 164 本
- (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売)

III 学会賞 平成15年度計測自動制御学会賞(敬称略)

(1) 功績賞 1名

飯塚幸三

(2) 論文賞 7編 20名

論文賞・武田賞 : 関 宏也, 大山 敏, 小河守正
 論文賞・友田賞 : 木村 元, 小林重信
 論文賞 : 上野直広, 秋山守人, 池田喜一,
 : 福島宏明, Wu Yue, 杉江俊治, Gi-Hwan Bae, 鈴木祥之
 : 児島 晃, Manfred Morari
 : 吉河章二, 西口憲一
 : 須藤秀紹, 川上浩司, 片井 修

(3) 技術賞 4編 13名

技術賞・蓮沼賞 : 赤塚孝雄, 富樫 整
 : 青山正明, 大矢博昭, 鎌田 仁, 及川和夫, 開沼徳和
 技術賞 : 南野郁夫, 田中政仁, 松永信智, 川路茂保
 : 藤井憲三, 山本 透

(4) 著述賞 (該当なし)

(5) 新製品開発賞 1社

三菱電機株式会社

(6) 教育貢献賞 (該当なし)

(7) 学術奨励賞

研究奨励賞 9名

河原知洋, 船本健一, Yohei Kuroiwa, 森田 晋, Hiroyuki Hirano, 東森 充,
金子陽一郎, 上山智数, 辻田哲平

技術奨励賞 1名

塚越秀行

(8) SICE Annual Conference Award

International Award 2編 2名

Takeo Kato

Tokihiko Kobata

Young Author's Award 1編 1名

Tetsuya Wakui

IV 名誉会員 平成15年度名誉会員証贈呈 1名(敬称略)

土屋喜一

V フェロー 平成15年度フェロー称号贈呈 7名(敬称略)

小野敏郎, 細江繁幸, 岩井善太, 田中正吾, 魚崎勝司, 原 辰次, 新 誠一

VI SICE 認定計測制御エンジニア (該当なし)

VII 部門賞・支部賞

1. 計測部門

研究・技術奨励賞: 鳥海不二夫, 南雲和幸

2. 制御部門

パイオニア賞: 増淵 泉

部門大会賞: 藤本健治, 加納 学

3. システム・情報部門

論文賞: 黒江康明

奨励賞: 井上 豊, 小島一浩, 田中文英

4. システムインテグレーション部門

技術業績賞: SONY, 前川製作所

奨励賞: 友納正裕, 油田信一, 並木明夫, 今井睦朗, 石川正俊

功績賞: 江木紀彦, 福田敏男

貢献賞: 田所 諭, 神徳徹雄

ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞

: 篠田孝祐, 野田五十樹

ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞

: 品川喜昭, 甲斐義章, 鳴瀬昌規, 木村哲也

ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会国際賞

: Tomoichi Takahashi

ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会国際賞

: Adam Jacoff

レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞 (レスキュー工学大賞)

: 毛利 孫 (広島大学チーム)

5. 産業応用部門

奨励賞: 大竹正道, 涌井徹也

技術賞, 功績賞は共に該当者なし

6. 北海道支部

(なし)

7. 東北支部

奨励賞: 遠藤 明, 金子陽一郎, 上田晋也, 佐藤留介

- 8. 中部支部
研究賞：岩崎 誠，高木章二
奨励賞：長瀬賢二
- 9. 北陸支部
優秀論文発表賞：柳田宏樹
- 10. 関西支部
支部長賞（技術賞）：原田泰樹
支部長賞（奨励賞）：岡尾篤彦
- 11. 中国支部
技術賞：大北和弘
奨励賞：磯永 聡，船曳晶彦，空 敬史，吉田長司，道上法正
- 12. 四国支部
奨励賞：（なし）
- 13. 九州支部
奨励賞：山浦祐樹，上 泰 ，末永祥健，下川尚宏

VIII 会 議

- 1. 総 会 第 42 回定時総会 (03.2.28・東京大学工学部 11 号館)
- 2. 理事会 6 回，拡大 1 回，常務理事会 2 回，特別常務理事会 1 回
- 3. 役員・評議員懇談会 1 回
- 4. 支部長懇談会 1 回
- 5. 支部協議会 1 回
- 6. 賛助会員懇談会 1 回
- 7. 学生会員懇談会 1 回
- 8. 関連団体懇談会 1 回
- 9. 海外参加者懇談会 1 回
- 10. 各種委員会
企画委員会(7 回，支部との打合せ 1 回)，
会員・広報委員会(打合せ 3 回)，
学会賞委員会(4 回)，
功績賞選考委員会(1 回)，
フェロー選考委員会(1 回)，
部門協議会(7 回)，
国際委員会(5 回)，
SICE Annual Conference 2003 in Fukui(実行委 4 回，プログラム委 2 回，Conference Award 2 回)，
SICE Annual Conference 2004 in Sapporo(実行委 3 回)，
IFAC 委員会(1 回)，
IMEKO 委員会(1 回)
事業委員会(3 回，WG 1 回)，
教育認定委員会(6 回，WG 13 回)，
会誌編集委員会(6 回，特別 1 回，企画対談 1 回)，
論文集委員会(8 回)，
総務委員会(9 回)，
財務委員会(1 回)
IT 委員会(打合せ 2 回)
役員候補者推薦委員会(2 回)，
科学研究費審査委員候補推薦委員会(2 回)
学術会議会員候補推薦委員会(1 回)
- 11. 支部関係
 - (1) 北海道支部 総会 1 回，役員会 3 回，評議員会 3 回
 - (2) 東北支部 総会 1 回，役員会 6 回
 - (3) 中部支部 総会 1 回，役員会 4 回，評議員会 1 回，事業委員会 5 回
 - (4) 北陸支部 総会 1 回，幹事会 5 回，幹事・評議員合同会議 1 回

- (5) 関西支部 総会 1 回, 幹事会 2 回 (特別, 拡大) 委員会 回
- (6) 中国支部 総会 1 回, 役員会 3 回, 拡大幹事会 1 回
- (7) 四国支部 総会 1 回, 役員会 回,
- (8) 九州支部 総会 1 回, 役員会 5 回, 評議員会 3 回, 委員会 4 回

IX その他

1. 国際関係

- (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
- (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
- (3) APFICS への協力
- (4) ISA, CIS, IEEE, ICASE, CAC, CAA との交流
- (5) 来日外国学識者との交流
- (6) 海外技術調査派遣

2. 国内関係

- (1) 日本工学会等関連学協会への協力(事業協賛, 後援など)
- (2) システム制御情報学会との事業協力
- (3) JABEE への協力
- (4) 「横断型科学技術の役割とその推進」への協力

平成 15 年度収支計算書総括表

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科目	合 計	一般会計	部門協議会	支部会計	横断型プロジェクト	内部取引消去
1. 基本財産運用収入	30,770	30,770	0	0	0	
2. 会費収入	104,508,191	104,508,191	0	0	0	
3. 事業収入	143,088,609	74,780,910	36,512,330	3,971,500	27,823,869	
4. 寄附金収入	0	0	0	0	0	
5. 雑収入	9,654,886	9,566,609	39,514	48,746	17	
6. 固定資産売却収入	0	0	0	0	0	
7. 基金特定預金取崩収入	3,235,644	2,937,194	221,763	76,687	0	
8. 繰入金収入	2,127,927	10,759,273	10,135,823	16,580,029	0	△ 35,347,198
当期収入合計 (A)	262,646,027	202,582,947	46,909,430	20,676,962	27,823,886	△ 35,347,198
前期繰越収支差額	74,951,717	46,029,728	19,478,765	9,443,224	0	
収入合計 (B)	337,597,744	248,612,675	66,388,195	30,120,186	27,823,886	△ 35,347,198

支出の部

科目	合 計	一般会計	部門協議会	支部会計	横断型プロジェクト	内部取引消去
1. 事業費	151,929,691	84,935,482	33,182,787	9,371,884	24,439,538	
2. 管理費	90,976,522	80,379,491	2,108,444	8,488,587	0	
3. 固定資産取得支出	179,802	179,802	0	0	0	
4. 基本財産繰入金支出	1,000,000	1,000,000	0	0	0	
5. 基金特定預金支出	22,029,443	5,829,013	13,800,338	2,400,092	0	
6. 繰入金支出	0	26,715,852	5,710,069	785,931	2,135,346	△ 35,347,198
7. 予備費	0	0	0	0	0	
当期支出合計 (C)	266,115,458	199,039,640	54,801,638	21,046,494	26,574,884	△ 35,347,198
当期収支差額 (A)-(C)	△ 3,469,431	3,543,307	△ 7,892,208	△ 369,532	1,249,002	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	71,482,286	49,573,035	11,586,557	9,073,692	1,249,002	

平成 15 年度正味財産増減計算書総括表

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	部門協議会	支部会計	横断型プロジェクト
I. 増加の部					
1. 資産増加額					
資産増加額合計	28,002,102	10,552,670	13,800,338	2,400,092	1,249,002
2. 負債減少額					
負債減少額合計	557,348	557,348	0	0	0
増加額合計	28,559,450	11,110,018	13,800,338	2,400,092	1,249,002
II. 減少の部					
1. 資産減少額					
資産減少額合計	15,688,517	7,007,894	8,113,971	566,652	0
2. 負債増加額					
負債増加額合計	1,006,001	1,006,001	0	0	0
減少額合計	16,694,518	8,013,895	8,113,971	566,652	0
当期正味財産増加額	11,864,932	3,096,123	5,686,367	1,833,440	1,249,002
前期繰越正味財産額	314,962,454	264,227,690	23,084,445	27,650,319	0
期末正味財産合計額	326,827,386	267,323,813	28,770,812	29,483,759	1,249,002

平成 15 年度貸借対照表総括表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	部門協議会	支部会計	横断型プロジェクト
I. 資産の部					
1. 流動資産					
流動資産合計	105,786,949	72,241,354	22,339,725	9,924,468	1,281,402
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	16,000,000	16,000,000	0	0	0
(2) その他の固定資産					
その他の固定資産合計	278,364,231	240,769,909	17,184,255	20,410,067	0
固定資産合計	294,364,231	256,769,909	17,184,255	20,410,067	0
資産合計	400,151,180	329,011,263	39,523,980	30,334,535	1,281,402
II. 負債の部					
1. 流動負債					
流動負債合計	34,304,663	22,668,319	10,753,168	850,776	32,400
2. 固定負債					
固定負債合計	39,019,131	39,019,131	0	0	0
負債合計	73,323,794	61,687,450	10,753,168	850,776	32,400
III. 正味財産の部					
正味財産	326,827,386	267,323,813	28,770,812	29,483,759	1,249,002
負債および正味財産合計	400,151,180	329,011,263	39,523,980	30,334,535	1,281,402

平成 15 年度財産目録総括表

平成 15 年 12 月 31 日

(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現 金 現金手許残高	1,222,171
普通預金 UFJ 銀行本郷支店	10,436,622
〃 住友信託銀行東京営業部	9,791,828
〃 〃	2,851,672
〃 〃	3,988,645
〃 みずほ銀行本郷支店	15,812,461
〃 〃	7,772,976
郵便振替貯金 00160-9-127863	1,128,414
普通預金 みずほ銀行 本郷支店	6,810,705
〃 三井住友銀行 小石川支店	8,080,606
〃 横浜銀行 東海大学駅前支店	4,297,101
郵便振替貯金 00130-7-581382	311,084
普通預金 みずほ銀行 札幌支店	324,757
〃 七十七銀行 仙台本店	267,723
〃 三井住友銀行 本山支店	847,004
〃 新生銀行 リテール事業部	358,187
〃 北國銀行 高尾支店	1,203,663
〃 みずほ銀行 堂島支店	560,845
〃 山陰合同銀行 湖山支店	1,799,887
〃 伊予銀行 城北支店	929,744
〃 肥後銀行 子飼橋支店	33,442
〃 肥後銀行 子飼橋支店	706,325
郵便貯金 17750-9269001	1,376
普通預金 三井住友銀行 小石川支店	1,281,402
未 収 金	23,112,559
(会費, 論文集代, 会誌別刷料, 論文別刷料, SICE2003, 部門支部行事参加費, 交付金等)	
前 払 金 (次年度事業分担金)	48,000
立 替 金 (IROS2004 資金貸与)	300,000
仮 払 金	1,507,750
(SICE2004, 源泉徴収税立替分, 次年度事業費仮払い分等)	
流動資産合計	105,786,949
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基 本 金	16,000,000
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)	
基本財産合計	16,000,000
(2) その他の固定資産	
建 物	58,135,428
什器備品	3,077,775
退職給与引当預金	34,019,131
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)	
記念事業引当預金	15,268,141
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 普通預金)	
IT 化推進引当預金	38,579,853

(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 普通預金) 事務所當繕引当預金	3,931,668
(住友信託銀行東京営業部 普通預金) 出版基金	18,578,726
(住友信託銀行東京支営業部 信託預金, 定期預金 みずほ銀行本郷支店 普通預金) 国際交流振興基金	28,471,713
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 三井住友銀行小石川支店 普通預金) 産学協同事業推進基金	10,029,468
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金) 蓮沼賞基金	1,941,552
(住友信託銀行東京営業部 普通預金) 友田賞基金	1,947,512
(住友信託銀行東京営業部 普通預金) 武田賞基金	21,978,521
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金) 預り保証金引当預金	5,000,000
(住友信託銀行東京営業部 信託預金) システム・情報部門 FAN シンポジウム基金	556,316
(東京三菱銀行春日町支店 定期預金) システム・情報部門 SMC 国際交流基金	828,059
(東京三菱銀行春日町支店 普通預金) 制御部門未来開拓基金	5,999,700
(東京三菱銀行春日町支店 普通預金) システム・情報部門自律分散システム部会シンポジウム基金	2,300,030
(みずほ銀行 定期預金) 計測部門調査研究会振興基金	1,500,050
(みずほ銀行 定期預金) SI 部門インテグレーション基盤開拓基金	6,000,100
(みずほ銀行 定期預金) 学術活動推進基金	683,701
(北洋銀行 北七条支店 普通預金) 記念事業基金	409,003
(七十七銀行 八木山支店 普通預金) 中部支部記念事業基金	2,250,587
(三井住友銀行 本山支店 定期預金) 中部支部支部賞事業基金	1,384,021
(三井住友銀行 本山支店 定期預金) 北陸支部学術活動推進基金	1,000,006
(北陸銀行 野々市支店 普通預金) 記念事業基金	8,610,478
(りそな銀行 梅田支店 普通預金) 学術講演会振興基金	1,788,572
(定額郵便貯金) 産学交流振興基金	2,394,104
(郵便貯金) 講演会基金	700,000
(伊予銀行 城北支店 普通預金) 九州支部学術活動推進基金	1,000,016
(郵便貯金) その他の固定資産合計	278,364,231

固定資産合計		294,364,231	
資産合計			400,151,180
Ⅱ. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 (会誌・論文集 11,12月号,SICE2003, 部門・ 支部事業費, 一般会計繰入金, 消費税相当額等)	19,103,671		
前受金 (16年度会費・論文集代予納分, 次年度事業参加費等)	2,398,900		
預り金 (社会保険料・源泉徴収税預り分, IFAC口座, 連合講演会口座等)	8,383,571		
仮受金(部門行事入金分, 返金, 保留分等)	4,418,521		
流動負債合計		34,304,663	
2. 固定負債			
退職給与引当金	34,019,131		
預り保証金(広告料保証金)	5,000,000		
固定負債合計		39,019,131	
負債合計			73,323,794
正味財産			326,827,386

平成 15 年度収支差額一部処分(案)

平成 15 年度決算における次期繰越収支差額 71,482,286 円は、定款 43 条により処分するものとし、そのうち、1,000,000 円を基本金に繰り入れ、残額を翌年度に繰越すものとする。

理事会の決議

平成 16 年 1 月 20 日

次期繰越収支差額 71,482,286 円のうち、1,000,000 円を基本金に繰り入れ、残額を翌年度に繰越す。

出席理事名

小 野 博 信	虎 尾 彰
小 畑 秀 文	眞 田 一 志
船 橋 誠 壽	重 松 崇
尾 花 英 夫	築 山 誠
森 泰 親	沈 貴 寶
伊 藤 宏 司	石 動 善 久
山 本 裕	川 又 政 征
小 林 尚 登	早 川 義 一
奥 津 良 之	朝 倉 俊 行
大須賀 美恵子	玉 置 久
木 田 隆	佐 伯 正 美
油 田 信 一	大 恵 俊 一 郎
橋 本 秀 紀	石 松 隆 和

証 明 書

社団法人 計測自動制御学会における平成15年度収支計算書および財産目録は、監査の結果、事実と相違ないことを証明します。

平成16年2月6日

(社)計測自動制御学会 監事 澤 田 廉 士 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 森 田 温 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 小 坂 満 隆 ⑩

証 明 書

社団法人 計測自動制御学会の平成15年12月31日現在における資産総額は400,151,180円であることを証明します。

平成16年2月6日

(社)計測自動制御学会 監事 澤 田 廉 士 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 森 田 温 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 小 坂 満 隆 ⑩

平成 15 年度一般会計収支計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1. 基本財産運用収入				
1.1 基本財産運用収入	12,000	30,770	△ 18,770	
小 計	12,000	30,770	△ 18,770	
2. 会費収入				
2.1 正会員会費収入	80,500,000	77,397,550	3,102,450	
2.2 学生会員会費収入	3,600,000	3,904,441	△ 304,441	
2.3 賛助会員会費収入	24,640,000	23,206,200	1,433,800	
小 計	108,740,000	104,508,191	4,231,809	
3. 事業収入				
3.1 広告収入	8,500,000	7,381,710	1,118,290	
3.2 論文集収入	31,600,000	33,793,570	△ 2,193,570	
3.3 産業論文収入	100,000	220,000	△ 120,000	
3.4 Annual Conference 収入	13,775,000	17,571,363	△ 3,796,363	
3.5 委員会事業収入	800,000	622,000	178,000	
(1) 総会懇親会収入	100,000	92,000	8,000	
(2) 計装エンジニア収入	700,000	530,000	170,000	
3.6 海外渡航者費用負担分収入	1,000,000	1,000,000	0	
3.7 規格調査収入	200,000	0	200,000	
3.8 会誌論文集収入	11,800,000	12,232,267	△ 432,267	
3.9 IMEKO インターネットサービス収入	900,000	700,000	200,000	
3.10 名簿頒布収入	3,000,000	1,260,000	1,740,000	
小 計	71,675,000	74,780,910	△ 3,105,910	
4. 寄付金収入				
4.1 寄付金収入	0	0	0	
小 計	0	0	0	
5. 雑 収 入				
5.1 受取利息	67,000	44,100	22,900	
5.2 日本工学会年金収入	0	30,222	△ 30,222	
5.3 雑収入	7,500,000	9,492,287	△ 1,992,287	
小 計	7,567,000	9,566,609	△ 1,999,609	
6. 固定資産売却収入				
6.1 固定資産売却収入	0	0	0	
小 計	0	0	0	
7. 基金特定預金取崩収入				
7.1 退職給与引当預金取崩収入	0	556,800	△ 556,800	
7.2 IT 化推進引当預金取崩収入	0	153,720	△ 153,720	
7.3 事務所営繕引当預金取崩収入	0	238,717	△ 238,717	
7.4 国際交流振興基金取崩収入	1,500,000	1,609,957	△ 109,957	
7.5 蓮沼賞基金取崩収入	0	220,500	△ 220,500	
7.6 友田賞基金取崩収入	0	63,000	△ 63,000	
7.7 武田賞基金取崩収入	0	94,500	△ 94,500	
小 計	1,500,000	2,937,194	△ 1,437,194	
8. 繰入金収入				
8.1 繰入金収入 (国際会議剰余金等)	3,000,000	2,127,927	872,073	
8.2 特別会計繰入金収入 (部門, 支部等)	5,128,160	8,631,346	△ 3,503,186	
(1) 支部からの収入	0	707,657	△ 707,657	
(2) 部門からの収入	4,330,280	4,993,044	△ 662,764	
(3) 横断型からの収入	0	1,762,442	△ 1,762,442	
(4) 消費税相当額, その他	797,880	1,168,203	△ 370,323	
小 計	8,128,160	10,759,273	△ 2,631,113	
当期収入合計 (A)	197,622,160	202,582,947	△ 4,960,787	
前期繰越収支差額	46,029,728	46,029,728	0	
収 入 合 計 (B)	243,651,888	248,612,675	△ 4,960,787	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1. 事業費				
1.1 会誌発行費	42,000,000	41,476,760	523,240	
(1) 印刷費	28,000,000	26,730,143	1,269,857	
(2) 通信運搬費	10,000,000	10,916,588	△ 916,588	
(3) 原稿料	1,200,000	1,265,828	△ 65,828	
(4) 編集費	1,800,000	1,871,201	△ 71,201	
(5) 会誌原稿作成費	1,000,000	693,000	307,000	
1.2 論文集発行費	15,000,000	15,385,866	△ 385,866	
(1) 印刷費	10,500,000	10,812,075	△ 312,075	
(2) 通信運搬費	2,600,000	2,816,641	△ 216,641	
(3) 校閲料	700,000	609,769	90,231	
(4) 編集費	1,200,000	1,147,381	52,619	
1.3 産業論文発行費	100,000	170,120	△ 70,120	
1.4 Annual Conference 費	15,275,000	13,087,825	2,187,175	
1.5 委員会事業費	2,780,000	1,693,330	1,086,670	
(1) 広報活動費	0	0	0	
(2) SICE Week 費	350,000	286,611	63,389	
(3) 時限部会活動費	1,000,000	185,020	814,980	
(4) 総会懇親会費	240,000	283,920	△ 43,920	
(5) 計装エンジニア費	700,000	352,542	347,458	
(6) 国際委員会活動費	150,000	245,037	△ 95,037	
(7) 会員委員会活動費	340,000	340,200	△ 200	
1.6 海外渡航調査費	1,000,000	1,000,000	0	
1.7 規格調査費	200,000	0	200,000	
1.8 学術交流会合費	400,000	403,333	△ 3,333	
1.9 共催事業分担金	1,000,000	1,228,420	△ 228,420	
1.10 フェロー関係費	300,000	750,750	△ 450,750	
1.11 学会賞費	2,900,000	3,947,990	△ 1,047,990	
1.12 IMEKO インターネットサービス費	900,000	749,000	151,000	
1.13 名簿発行費	3,000,000	2,726,633	273,367	
1.14 消費税	2,300,000	1,537,100	762,900	
1.15 事業未収金回収不能額	1,500,000	778,355	721,645	
小 計	88,655,000	84,935,482	3,719,518	
2. 管理費				
2.1 人件費	55,200,000	52,847,580	2,352,420	
(1) 給与手当	43,500,000	38,746,950	4,753,050	
(2) 福利厚生費	7,000,000	5,645,066	1,354,934	
(3) 事務処理費	4,700,000	8,455,564	△ 3,755,564	
2.2 旅費交通費	3,000,000	3,267,500	△ 267,500	
2.3 通信運搬費	3,700,000	4,142,837	△ 442,837	
2.4 消耗品費	2,500,000	2,632,930	△ 132,930	
2.5 印刷製本費	900,000	659,361	240,639	
2.6 事務所費	3,840,000	3,685,544	154,456	
2.7 修繕費	0	0	0	
2.8 総会費	1,200,000	1,670,755	△ 470,755	
2.9 理事会費	2,000,000	1,955,311	44,689	
2.10 会議費	2,000,000	1,577,882	422,118	
2.11 OA 関係諸雑費	1,700,000	1,404,162	295,838	
2.12 公認会計士謝礼	530,000	525,000	5,000	
2.13 雑 費	900,000	589,519	310,481	
2.14 退職手当	0	556,800	△ 556,800	
2.15 日本工学会年会費	0	5,720	△ 5,720	
2.16 会費自動引落費	560,000	540,980	19,020	
2.17 OA 機器購入費	0	5,880	△ 5,880	
2.18 会費還元費	200,000	57,080	142,920	
2.19 会費未収金回収不能額	2,500,000	4,254,650	△ 1,754,650	

小計	80,730,000	80,379,491	350,509	
3. 固定資産取得支出				
3.1 什器備品購入支出	600,000	179,802	420,198	
小計	600,000	179,802	420,198	
4. 基本財産繰入支出				
4.1 基本財産繰入支出	1,000,000	1,000,000	0	
小計	1,000,000	1,000,000	0	
5. 基金特定預金支出				
5.1 退職給与引当預金支出	1,909,000	1,005,453	903,547	
5.2 記念事業引当預金支出	4,000	1,854	2,146	
5.3 IT化推進引当預金支出	8,000	7,783	217	
5.4 事務所管繕引当預金支出	501,000	500,036	964	
5.5 出版基金支出	4,000	846,682	△ 842,682	
5.6 国際交流振興基金支出	10,000	3,451,177	△ 3,441,177	
5.7 産学協同事業推進基金支出	8,000	7,980	20	
5.8 蓮沼賞基金支出	500	21	479	
5.9 友田賞基金支出	500	20	480	
5.10 武田賞基金支出	10,000	8,007	1,993	
小計	2,455,000	5,829,013	△ 3,374,013	
6. 繰入金支出				
6.1 特別会計繰入金支出	23,600,400	26,715,852	△ 3,115,452	
(1) 支部への支出	14,450,400	16,548,379	△ 2,097,979	
(2) 部門への支出	9,000,000	9,914,573	△ 914,573	
(3) 事業未収金回収不能引当支出	150,000	252,900	△ 102,900	
小計	23,600,400	26,715,852	△ 3,115,452	
7. 予備費				
7.1 予備費	500,000	0	500,000	
小計	500,000	0	500,000	
当期支出合計 (C)	197,540,400	199,039,640	△ 1,499,240	
当期収支差額 (A)-(C)	81,760	3,543,307	△ 3,461,547	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	46,111,488	49,573,035	△ 3,461,547	

平成 15 年度一般会計正味財産増減計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	3,543,307		
基本財産増加額	1,000,000		
什器備品購入額	179,802		
退職給与引当預金増加額	1,006,001		
記念事業引当預金増加額	1,854		
IT 化推進引当預金増加額	7,783		
事務所営繕引当預金増加額	500,036		
出版基金増加額	846,682		
国際交流振興基金増加額	3,451,177		
産学協同事業推進基金増加額	7,980		
蓮沼賞基金増加額	21		
友田賞基金増加額	20		
武田賞基金増加額	8,007	10,552,670	
2. 負債減少額			
退職給与引当金取崩額	557,348	557,348	
増加額合計			11,110,018
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
建物減価償却額	2,296,410		
什器備品減価償却額	1,773,742		
退職給与引当預金取崩額	557,348		
IT 化推進引当預金取崩額	153,720		
事務所営繕引当預金取崩額	238,717		
国際交流振興基金取崩額	1,609,957		
蓮沼賞基金取崩額	220,500		
友田賞基金取崩額	63,000		
武田賞基金取崩額	94,500	7,007,894	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額	1,006,001	1,006,001	
減少額合計			8,013,895
当期正味財産増加額			3,096,123
前期繰越正味財産額			264,227,690
期末正味財産合計額			267,323,813

平成 15 年度一般会計貸借対照表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I.資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	52,582,524		
未 収 金	18,851,080		
立 替 金	300,000		
仮 払 金	507,750		
流動資産合計		72,241,354	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	16,000,000		
基本財産合計	16,000,000		
(2) その他の固定資産			
建 物	58,135,428		
什器備品	2,888,196		
退職給与引当預金	34,019,131		
記念事業引当預金	15,268,141		
IT 化推進引当預金	38,579,853		
事務所営繕引当預金	3,931,668		
出版基金	18,578,726		
国際交流振興基金	28,471,713		
産学協同事業推進基金	10,029,468		
蓮沼賞基金	1,941,552		
友田賞基金	1,947,512		
武田賞基金	21,978,521		
預り保証金引当預金	5,000,000		
その他の固定資産合計	240,769,909		
固定資産合計		256,769,909	
資産合計			329,011,263
II.負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	11,906,428		
前 受 金	2,256,900		
預 り 金	8,383,571		
仮 受 金	121,420		
流動負債合計		22,668,319	
2. 固定負債			
退職給与引当金	34,019,131		
預り保証金	5,000,000		
固定負債合計		39,019,131	
負債合計			61,687,450
III.正味財産の部			
正味財産			267,323,813
(うち基本金)			(16,000,000)
(うち当期正味財産増加額)			(3,096,123)
負債および正味財産合計			329,011,263

平成 15 年度一般会計財産目録

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金 現金手許残高	799,906		
普通預金 UFJ 銀行本郷支店	10,436,622		
" 住友信託銀行東京営業部	9,791,828		
" "	2,851,672		
" "	3,988,645		
" みずほ銀行本郷支店	15,812,461		
" "	7,772,976		
郵便振替貯金 00160-9-127863	1,128,414		
未収金 (会費, 論文集代, 会誌別刷料, 論文別刷料, SICE2003 等)	18,851,080		
立替金	300,000		
仮払金 (SICE2004, 源泉徴収税立替分等)	507,750		
流動資産合計		72,241,354	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)	16,000,000		
基本財産合計	16,000,000		
(2) その他の固定資産			
建物	58,135,428		
什器備品	2,888,196		
退職給与引当預金	34,019,131		
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 定期預金)			
記念事業引当預金	15,268,141		
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 普通預金)			
IT 化推進引当預金	38,579,853		
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 普通預金)			
事務所営繕引当預金	3,931,668		
(住友信託銀行東京営業部 普通預金)			
出版基金	18,578,726		
(住友信託銀行東京支営業部 信託預金, 定期預金 みずほ銀行本郷支店 普通預金)			
国際交流振興基金	28,471,713		
(住友信託銀行東京営業部 信託預金, 三井住友銀行小石川支店 普通預金)			
産学協同事業推進基金	10,029,468		
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)			
蓮沼賞基金	1,941,552		
(住友信託銀行東京営業部 普通預金)			
友田賞基金	1,947,512		
(住友信託銀行東京営業部 普通預金)			
武田賞基金	21,978,521		
(住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)			
預り保証金引当預金	5,000,000		
(住友信託銀行東京営業部 信託預金)			
その他の固定資産合計	240,769,909		
固定資産合計		256,769,909	
資産合計			329,011,263
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 (会誌・論文集 11,12 月号,SICE2003, 部門等)	11,906,428		
前受金 (16 年度会費, 論文集代予納分等)	2,256,900		
預り金 (社会保険料・源泉徴収税預り分, IFAC 口座, 連合講演会口座等)	8,383,571		
仮受金 (部門行事入金分, 返金, 保留分等)	121,420		
流動負債合計		22,668,319	
2. 固定負債			
退職給与引当金	34,019,131		
預り保証金 (広告料保証金)	5,000,000		
固定負債合計		39,019,131	
負債合計			61,687,450
正味財産			267,323,813

計算書類に対する注記（一般会計）

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は、法人税法に定める定率法によっている。
- (2) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は、期末要支給額を計上している。
- (3) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金、立替金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び仮受金を含めている。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸付信託	15,000,000	1,000,000		16,000,000
合計（基本金）	15,000,000	1,000,000		16,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	33,138,260	52,582,524
未収金	19,465,617	18,851,080
立替金	358,800	300,000
仮払金	9,992,187	507,750
合計	62,954,864	72,241,354
未払金	8,726,690	11,906,428
前受金	2,782,395	2,256,900
預り金	1,188,988	8,383,571
仮受金	4,227,063	121,420
合計	16,925,136	22,668,319
次期繰越収支差額	46,029,728	49,573,035

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	88,000,000	29,864,572	58,135,428
什器備品	13,049,315	10,161,119	2,888,196
合 計	101,049,315	40,025,691	61,023,624

平成 15 年度一般会計引当預金明細

収 入	<u>退職給与引当預金</u>		支 出
前期繰越	33,570,478 円	退職手当支払 (1名)	556,800 円
今年度繰入	1,000,000	解約手数料	548
受取利息	6,001		
		次期繰越	34,019,131
合 計	34,576,479	合 計	34,576,479

収 入	<u>記念事業引当預金</u>		支 出
前期繰越	15,266,287 円		円
受取利息	1,854		
		次期繰越	15,268,141
合 計	15,268,141	合 計	15,268,141

収 入	<u>IT化推進引当預金</u>		支 出
前期繰越	38,725,790 円	Annual Conference用ノートパソコン購入費用	101,640 円
受取利息	7,783	サーバー用ハードディスク購入費用	31,290
		電話工事代金	20,790
		次期繰越	38,579,853
合 計	38,733,573	合 計	38,733,573

収 入	<u>事務所営繕引当預金</u>		支 出
前期繰越	3,670,349 円	事務所パネル購入費	238,717 円
今年度繰入	500,000		
受取利息	36		
		次期繰越	3,931,668
合 計	4,170,385	合 計	4,170,385

収 入	<u>預り保証金引当預金</u>		支 出
前期繰越	5,000,000 円		円
		次期繰越	5,000,000
合 計	5,000,000	合 計	5,000,000

注)欄中外より広告料保証金として預っている。

平成 15 年度一般会計基金明細

収 入	出 版 基 金	支 出
前期繰越	17,732,044 円	円
ビデオ頒布収入	98,000	
SICE-BASE 頒布収入	105,000	
印税収入	594,304	
<ul style="list-style-type: none"> ・信号処理 131,805 ・システム制御のためのマトリクス理論 34,272 ・システムモデリングとシミュレーション 41,483 ・ロボット制御の実際 188,924 ・プロセス制御 80,640 ・線形ロバスト制御 44,100 ・産業応用計測技術 73,080 		
先端学術シリーズ頒布収入	41,400	
受取利息	7,978	
		次期繰越 18,578,726
合 計	18,578,726	合 計 18,578,726

収 入	国 際 交 流 振 興 基 金	支 出
前期繰越	26,630,493 円	International Scholarship 400,000 円
国際会議資金貸与戻入	358,800	(・ SICE2003 400,000)
(・ IROS2003 358,800)		OS Scholarship 780,000
国際会議剰余金等繰入	2,305,259	(・ SICE2003 780,000)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ISHF2001 62,961 ・ SICE/ICASE WS 130,805 ・ ISADS2001 120,040 ・ IVEC2001 267,278 ・ IROS2001 782,825 ・ IROS2002 909,847 ・ ISADS2003 31,503 		国際会議職員出張費 127,437
		(・ ICCAS2003 127,437)
OS 支援費相当額繰入	780,000	国際会議資金貸与 300,000
受取利息	7,118	(・ IROS2004 300,000)
		通信費 2,520
		次期繰越 28,471,713
合 計	30,081,670	合 計 30,081,670

収 入	産 学 協 同 事 業 推 進 基 金	支 出
前期繰越	10,021,488 円	円
受取利息	7,980	
		次期繰越 10,029,468
合 計	10,029,468	合 計 10,029,468

収 入	蓮 沼 賞 基 金		支 出
前期繰越 受取利息	2,162,031 円 21	個人賞賞牌	220,500 円
		次期繰越	1,941,552
合 計	2,162,052	合 計	2,162,052

収 入	友 田 賞 基 金		支 出
前期繰越 受取利息	2,010,492 円 20	個人賞賞牌	63,000 円
		次期繰越	1,947,512
合 計	2,010,512	合 計	2,010,512

収 入	武 田 賞 基 金		支 出
前期繰越 受取利息	22,065,014 円 8,007	個人賞賞牌	94,500 円
		次期繰越	21,978,521
合 計	22,073,021	合 計	22,073,021